

「ワサオーロ®」と DDVP との比較

【原料物性】

商品名	ワサオーロ	DDVP
有効成分	アリルイソチオシアネート	ジクロロボス
外観(常温)	無～淡黄色の澄明な液体	無色の液体
分子量	99.16	220.98
沸点	148～154℃	140℃(但し20mmHg)
蒸気圧(at 20℃)	3.7 mmHg	1.2×10^{-2} mmHg
水溶解性	0.1w/w%	1 w/w%

【防虫効果と毒性】

比較項目		アリルイソチオシアネート	DDVP
防虫 効果 LC ₅₀	コクゾウ虫	21.5 ppm	106* ppm
	ノシメダラメイガ	2.04 (幼虫は80.9)	53*
	コクヌストモドキ	129	106*
	タバコシハシムシ	20	*製品の添付文書よりDDVP含量(19.2g)を算出し、下記の対象害虫の使用量(プレート枚数/%)からこれを気体の状態方程式に入れて算出した理論値 コクゾウ虫、コクヌストモドキ:1枚/20% ノシメダラメイガ:1枚/40%
	コクガ	34.2	
	ヒラタキクイムシ	約80	
	イエシロアリ	10～13	
	ヤケヒョウダニ	3.9	
	コナヒョウダニ	4.3	
作用機作	呼吸酵素の電子伝達系における基質の脱水素に寄与するSH酵素(チトクロムCオキシゲナーゼ等)の阻害等	神経酵素アセチルコリンエステラーゼ(AChE)の阻害→神経機能攪乱→中毒症状発現	
毒性	LD ₅₀ : 490mg/kg (ラット経口) 「H7年度厚生科学研究報告」で基本的な安全性が確保されている物質と判定	LD ₅₀ : 17mg/kg (ラット経口) 呼吸毒としての作用が強い 変異原性あり、魚毒性B類 ニトリ受精卵に対して影響あり	

◆◆◆ カラシ抽出物の蒸気 MIC ◆◆◆

分類	被験菌			MICレベル※				
				A	B	C	D	E
カビ	<i>Alternaria alternata</i>	IFO 4026	ススカビ属	●				
	<i>Mucor racemosus</i>	IFO 6745	ケカビ属	●				
	<i>Penicillium chrysogenum</i>	IFO 6223	アオカビ属		●			
	<i>Penicillium citrinum</i>	ATCC 9849		●				
	<i>Penicillium islandicum</i>	NFRI 1156		●				
	<i>Penicillium digitatum</i>				●			
	<i>Aspergillus niger</i>	ATCC 6275			●			
	<i>Aspergillus flavus</i>	IFO 5839	麹カビ属		●			
	<i>Aspergillus flavus</i>	NFRI 1157		●				
	<i>Cladosporium herbarum</i>	IFO 31006		クロカワカビ属	●			
	<i>Cladosporium cladosporioides</i>	IFO 6348	●					
	<i>Rhizopus javanicus</i>		クモノスカビ属			●		
	<i>Wallemia sebi</i>	IFO 5992	アズキイロカビ属	●				
	<i>Chaetomium globosum</i>	IFO6347	ケトミウム属		●			
	<i>Monascus ruber</i>	IFO 31842	紅麹カビ属	●				
	<i>Fusarium oxysporum</i>	NFRI 1011	アカカビ属	●				
	<i>Fusarium graminearum</i>	NFRI 1233		●				
	<i>Fusarium solani</i>	IFO 9425		●				
	<i>Geotrichum candidum</i>			ゲオトリクム属		●		
	酵母	<i>Zygosaccharomyces rouxii</i>	IFO 0320	漬物関連酵母	●			
<i>Debaryomyces hansenii</i>		JCM 1526			●			
<i>Torulopsis versatilis</i>		JCM 5957			●			
<i>Hansenula anomala</i>		NFRI 3717	腐敗性酵母	●				
<i>Tonataspora delbrueckii</i>		NFRI 3811		●				
<i>Candida tropicalis</i>		NFRI 4040	耐糖性酵母	●				
<i>Zygosaccharomyces rouxii</i>		NFRI3447	醤油酵母	●				
<i>Saccharomyces cerevisiae</i>		NFRI 3066	パン酵母	●				
<i>Candida albicans</i>		IFO 1061	病原性酵母	●				
グラム陽性菌		<i>Staphylococcus aureus</i>	IFO 12732	黄色ブドウ球菌			●	
	<i>Staphylococcus epidermidis</i>	IFO 12993	表皮ブドウ球菌			●		
	<i>Bacillus cereus</i>	IFO 13494	セレウス菌			●		
	<i>Bacillus circulans</i>	IFO 3329	枯草菌		●			
	<i>Bacillus subtilis</i>	IFO 13722		●				
	<i>Leuconostoc mesenteroides</i>	IFO 3426	乳酸球菌					●
	<i>Streptococcus faecalis</i>						●	
	<i>Pediococcus acidilactici</i>							●
	<i>Pediococcus halophilus</i>							●
	<i>Lactobacillus brevis</i>	IFO 3960	乳酸桿菌					●
<i>Lactobacillus plantarum</i>							●	
グラム陰性菌	<i>Escherichia coli</i>	JCM 1649	大腸菌	●				
	<i>Salmonella typhimurium</i>	ATCC 14028	ネズミチフス菌		●			
	<i>Salmonella paratyphi B</i>		パラチフス菌		●			
	<i>Salmonella pullorum</i>			●				
	<i>Salmonella enteritidis</i>	JCM 1891	腸炎菌		●			
	<i>Shigella flexneri 1b</i>		赤痢原因菌		●			
	<i>Vibrio cholerae</i>		コレラ菌	●				
	<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	IFO 12711	腸炎ビブリオ菌		●			
	<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IFO 13275	緑膿菌	●				

※判定基準 A:20ppm 以下、 B:21~60ppm、 C:61~120ppm、 D:121~360ppm、 E:361ppm 以上

AITの悪臭ガス抑制効果

2004/12/9
三菱化学フーズ
城東研究室

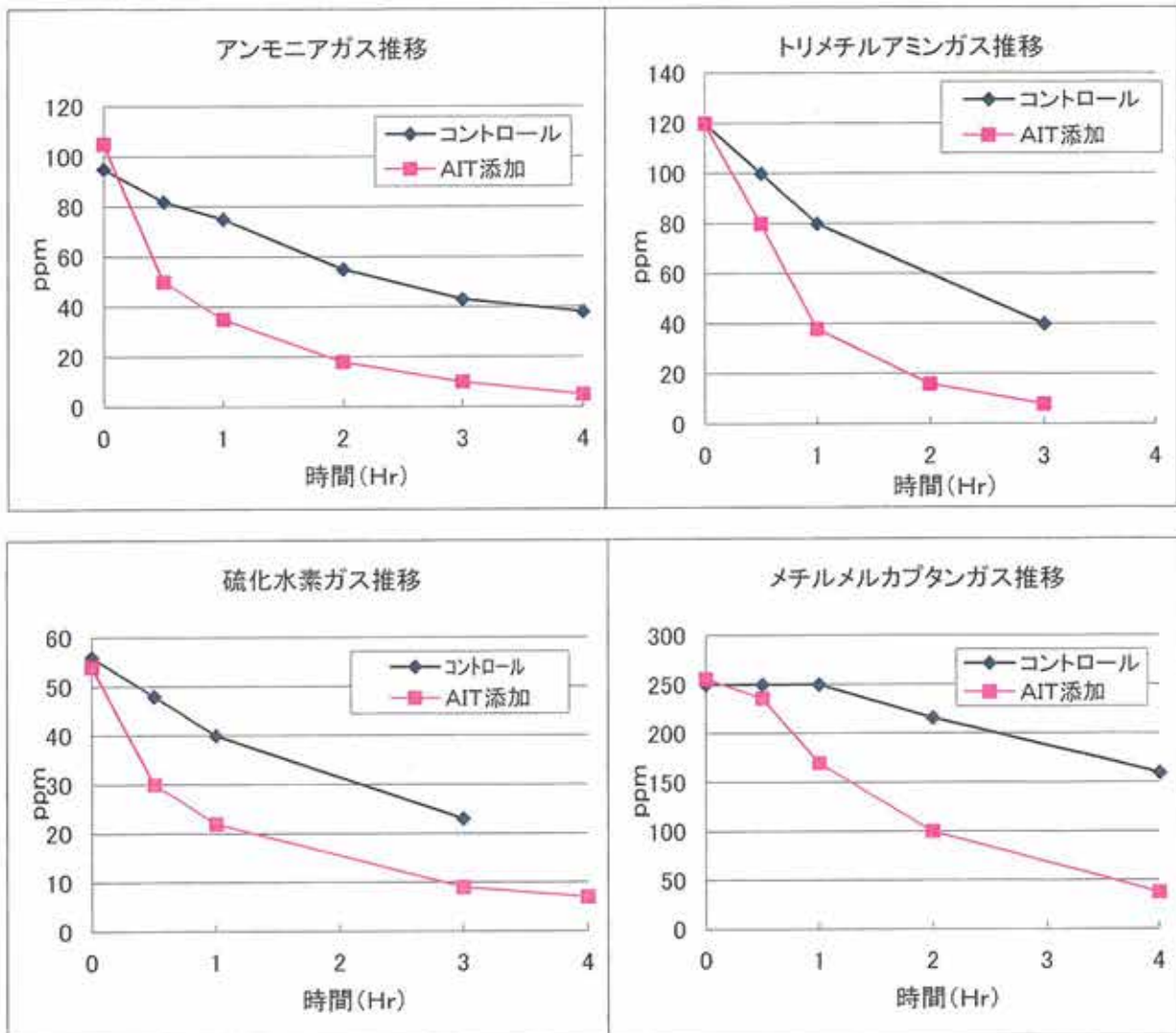
目的 代表的悪臭物質とAITとの反応を調べ、悪臭防止効果を検討

容器 約50L(29*44*39cm)の蓋付きガラス製水槽を用い、容器内は常時ファンで搅拌

悪臭物質と発生方法

- 1 アンモニア 28%アンモニア水8 μ lを容器内に入れ、ファンで蒸発させる
- 2 トリメチルアミン 30%トリメチルアミン水40 μ lを容器内に入れ、ファンで蒸発させる
- 3 硫化水素 26.8%硫化ナトリウム液100 μ lに1N硫酸0.5ml添加して発生させる
- 4 メチルメルカプタン 15%メチルメルカプタンナトリウム液100 μ lに1N硫酸0.5mlを添加して発生させる

操作 悪臭物質(1~4)を発生させた容器にAIT20 μ lを添加し、経時的に悪臭物質を測定
測定はガス検知管(ガステック社)を用い、室温(24~26 $^{\circ}$ C)で行った



チューブ製剤のA I T放出挙動

- ・チューブサイズ

(外径上部 20×外径下部 15×長さ 70mm)

- ・液組成

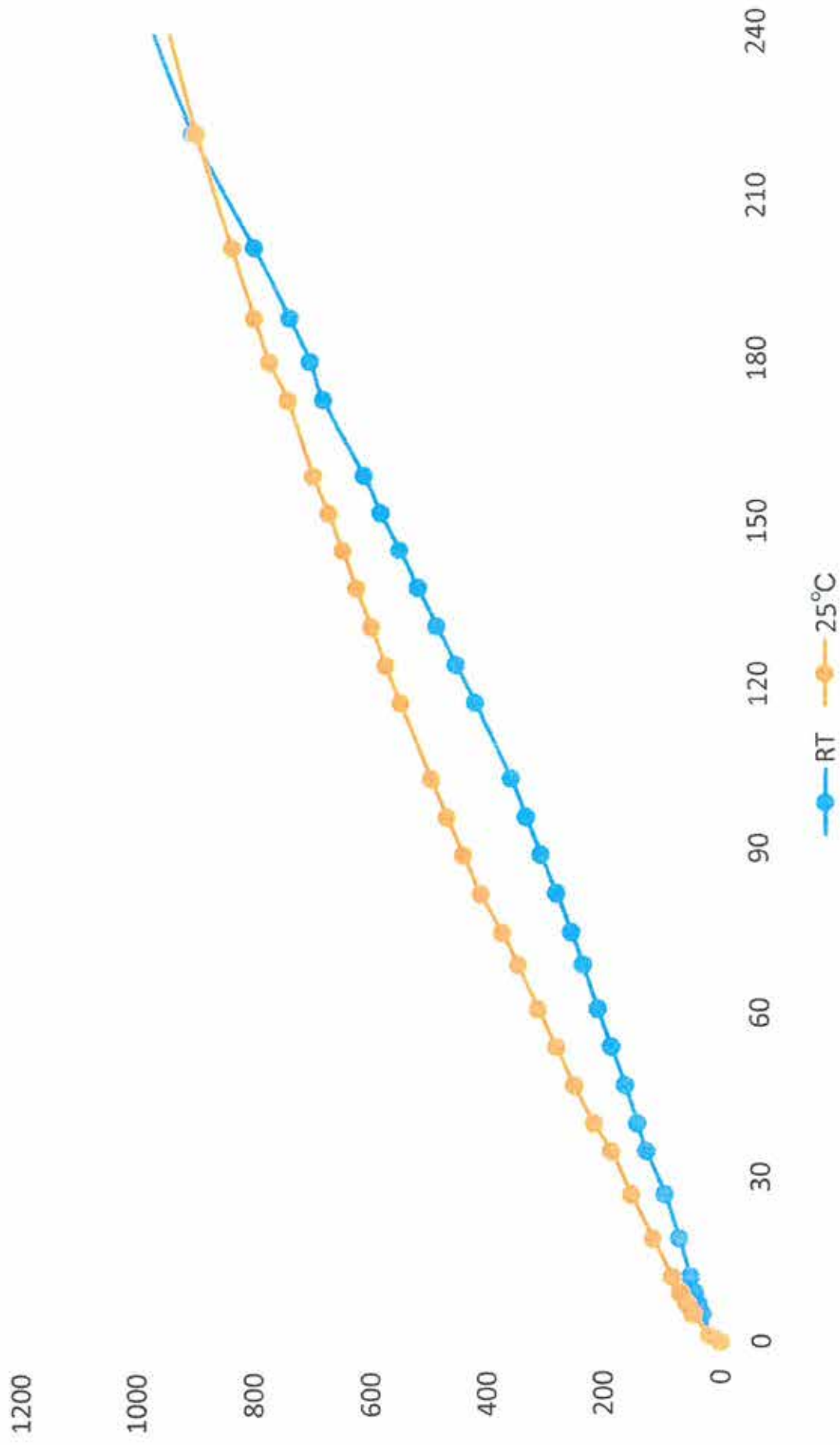
A I T 1.5 g

O I L 1.5 g

A I T累積放出量 (mg) 縦軸

日数 横軸

チューブ放出挙動



三菱化学フーズ株式会社

安全データシート (SDS)

作成日 2012/02/01

改訂日 2013/07/23

1. 製品及び会社情報

製品名	: ワサオーロ・チューブ
会社名	: 三菱化学フーズ株式会社
住所	: 東京都千代田区丸の内1-1-1
担当部門	: 第二事業部
電話番号	: 03-6748-7426
FAX番号	: 03-3286-2064
緊急連絡電話番号	: 03-6748-7422
整理番号	: C672-7535
推奨用途および使用上の制限	: 工業用途 上記以外の用途に使用する場合にはご一報ください。

2. 危険有害性の要約

GHS分類:

物理化学的危険性:

火薬類	: 分類できない
可燃性/引火性ガス	: 分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	: 分類対象外
支燃性/酸化性ガス	: 分類対象外
高压ガス	: 分類対象外
引火性液体	: 分類対象外
可燃性固体	: 分類できない
自己反応性化学品	: 分類できない
自然発火性液体	: 分類対象外
自然発火性固体	: 分類できない
自己発熱性化学品	: 分類できない
水反応可燃性化学品	: 分類できない
酸化性液体	: 分類対象外
酸化性固体	: 分類できない
有機過酸化物	: 分類できない
金属腐食性物質	: 分類できない

健康に対する有害性:

急性毒性-経口	: 区分4
急性毒性-経皮	: 区分2
急性毒性-吸入 (気体)	: 分類対象外
急性毒性-吸入 (蒸気)	: 分類できない
急性毒性-吸入 (粉塵/ミスト)	: 分類できない
皮膚腐食性/刺激性	: 区分2
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	: 区分外
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 区分1

生殖細胞変異原性	:	分類できない	
発がん性	:	分類できない	
生殖毒性	:	区分2	
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	:	区分2	(全身毒性)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	:	区分2	(全身毒性)
吸引性呼吸器有害性	:	分類できない	
環境に対する有害性:			
水生環境急性有害性	:	区分1	
水生環境慢性有害性	:	区分1	
GHSラベル要素:			
絵表示またはシンボル:			



- 注意喚起語 : 危険
- 危険有害性情報 :
- ・ 飲み込むと有害
 - ・ 皮膚刺激
 - ・ アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 - ・ 生殖能力または胎児への悪影響のおそれの疑い
 - ・ 臓器 (全身毒性) の障害のおそれ
 - ・ 長期または、反復暴露により臓器 (全身毒性) の障害のおそれ
 - ・ 水生生物に非常に強い毒性
 - ・ 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

- 注意書き:
- 安全対策 :
- ・ すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 - ・ 取り扱い後は手をよく洗うこと。
 - ・ この製品を使用する時に飲食または喫煙をしないこと。
 - ・ 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 - ・ 環境への放出を避けること。
 - ・ 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 - ・ 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙
 - ・ 容器を密閉しておくこと。
 - ・ 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
 - ・ 火花を発生しない工具を使用すること。
 - ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 - ・ 保護手袋、保護眼鏡、保護マスクを着用すること。
 - ・ 充填液が漏出した場合は、眼、皮膚、衣類に付けないこと。
- 応急措置 :
- ・ 皮膚刺激または発疹が生じた場合は医師の診断、手当てを受けること。
 - ・ 暴露した場合または気分が悪い場合は医師に連絡すること。
 - ・ 気分が悪い時は医師の診断、手当を受けること。
 - ・ 指定された消火剤を使用すること。
 - ・ 充填液が漏出し、飲み込んだ場合は医師に連絡すること。口をすすぐこと。
 - ・ 充填液が漏出し、皮膚又は髪に付着した場合は直ちに汚染された衣類を全て脱ぎ取り除く。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
 - ・ 充填液が漏出し、皮膚に付着した場合は多量の水と石鹸で洗うこと。
 - ・ 充填液が漏出した場合は漏出物を回収すること。
- 保管 :
- ・ 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄 : 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一/混合物 : 混合物
 化学名または一般名 : 該当情報なし
 化学特性 (化学式等) : 該当情報なし
 成分:

No.	成分名	CAS No.	化学式	含有率 (%)
1	イソチオシアン酸アリル	57-06-7	C ₄ H ₅ N ₃ S	15.4%
2	ジノチルヒドロキシトルエン	128-37-0	C ₁₅ H ₂ 4O	0.2%
3	着色剤 (黄)	7576-65-0	—	0.003%
4	着色剤 (緑)	128-80-3	—	0.002%
5	食用油	—	—	15.2%
6	包材	—	—	69.2%

No.	化審法 官報公示整理番号	安衛法 官報公示整理番号	安衛法 通知物質	化管法 (PRTR法)	毒劇法
1	(2)-1689	(2)-1689	—	—	—
2	(3)-540, (9)-1805	(3)-540, (9)-1805	262	—	—
3	(5)-4084	(5)-4084	—	—	—
4	(5)-3131	(5)-3131	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—

毒物及び劇物取締法 : 該当せず

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させること、気分が悪い時には医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 外観に変化が見られたり刺激痛がある場合、気分が悪いときには医師の診断を受けること。
 充填液が漏出し、皮膚に付着した場合は、付着物を布にて素早く拭き取る。
 充填液が漏出し、皮膚に付着した場合は、大量の水および石鹼または皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。
 充填液が漏出し、皮膚に付着した場合は、直ちに全ての汚染された衣類を取り除くこと。
- 目に入った場合 : 充填液が漏出し、目に入った場合は、直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
 充填液が漏出し、目に入った場合は、できるだけ早く医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 充填液が漏出し、誤って飲み込んだ場合は、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
 充填液が漏出し、誤って飲み込んだ場合は、嘔吐物が気管に流入しないように注意する。
 充填液が漏出し、誤って飲み込んだ場合は、医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
- 応急措置をする者の保護 : 適切な保護具 (保護メガネ、防護マスク、手袋等) を着用する。
 換気を行う。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : ・ 粉末、泡沫、炭酸ガス、乾燥砂など
- 使ってはならない消火剤 : ・ 棒状水、高圧水
- 特有の消火方法、消火を行うものの保護 : ・ 適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用する。
 ・ 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
 ・ 指定された消火剤を使用すること。
 ・ 消火活動は風上より行う。
 ・ 周辺を立ち入り禁止にして関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
 ・ 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
 ・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : ・ 作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグルなど）を着用する。
 ・ 周辺を立ち入り禁止にして関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
 ・ 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。
 ・ 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。
- 環境に対する注意事項 : ・ 河川への排出等により環境への影響を起こさないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法／機材 : ・ 付着物、廃棄物などは関係法規に基づいて処置すること。
 ・ 漏出物は密封できる容器に回収し安全な場所に移す。
 ・ スコップ、ウエス等で回収する。大量の流出には盛土などで流出を防ぐ。水での洗浄なども河川への排出、環境汚染を引き起こすおそれもあり注意する。
 ・ 衝撃、静電気に備えて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

- 技術的対策 : ・ 換気のよい場所で取り扱う。
 ・ 皮膚、粘膜、または着衣に触れたり目に入らぬよう保護具を着用する。
 ・ 取り扱い後は手・顔等は良く洗い休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
 ・ 本製品の有効成分は強い刺激臭があり、蒸気が目や鼻などを刺激する場合がありますため、製品開封時及び取り扱い時に顔を近づけない。
 ・ チューブを分解して充填液を漏出させないこと。
 ・ 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
 ・ 工具は火花防止型のものを使用する。
 ・ 作業中は帯電防止型の作業服、靴を使用する。

- 局所排気／全体換気 : ・ 充填液は引火性の液体であるので、火気厳禁とし、換気のよい場所で取り扱う。

注意事項：

- ・ パレット及び他の保管物からの着臭防止及び毒物の混入防止を図る。
 ・ 静電気対策のため装置などを設置し、電気機器類は防爆型（安全増型）を使用する。

保管：

- 技術的対策 : ・ 日光の直射を避ける。
 ・ 火気、熱源から遠ざけて密閉容器にて保管する。

- 適切な保管条件 : ・ 可燃性があるので、火花、火災の接近は避ける。
 ・ 必ず密閉状態にし、直射日光を避けて冷暗所に保管する。
 水分、薬品等が付かないようにする。

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 :
- ・ 取り扱い設備は防爆型を使用する。
 - ・ 排気装置を付けて蒸気が滞留しないようにする。
 - ・ 取り扱いの場所近くには高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。
- 保護具 :
- 呼吸器の保護具 : ・ マスク
- 手の保護具 : ・ 有機溶剤または化学薬品が浸透しない材料の手袋を着用する。
- 目の保護具 : ・ 取り扱いには保護メガネを着用すること。
- 皮膚及び身体の保護具 : ・ 取り扱う場合には皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。
- その他 : ・ 静電気発生を防止するために通電靴を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観
- 物理的状態 : 固体
- 色 : 緑色 (充填液)
- 臭い : 該当情報なし
- pH : 該当情報なし
- 融点/凝固点 : 該当情報なし
- 沸点、初留点、沸騰範囲 : 該当情報なし
- 引火点 : 該当情報なし
- 自然発火温度 (発火点) : 該当情報なし
- 燃焼または爆発範囲の上限/下限 : 該当情報なし
- 蒸気圧 : 該当情報なし
- 蒸気密度 : 該当情報なし
- 比重 (相対密度) : 該当情報なし
- 水に対する溶解度 : 該当情報なし
- 水に対する溶解性 : 該当情報なし
- 溶媒に対する溶解度 : 該当情報なし
- 溶媒に対する溶解性 : 該当情報なし
- オクタノール/水分配係数 : 該当情報なし
- 分解温度 : 該当情報なし

10. 安定性及び反応性

- 安定性 (危険有害反応可能性) :
- ・ イソチオシアン酸アリルが揮発する。
 - ・ 高温ではイソチオシアン酸アリルが分解、変色する。
 - ・ 加熱、燃焼、あるいは酸との接触により分解し、窒素酸化物、イオウ酸化物を含む非常に有毒なヒュームを生じる。強力な酸化剤と反応する。(イソチオシアン酸アリルの情報)
- 避けるべき条件 :
- ・ 加熱、燃焼あるいは酸との接触 (イソチオシアン酸アリルの情報)
 - ・ 充填液は引火性の液体であるので、火気厳禁とする。
- 混触危険物質 :
- ・ 強力な酸化剤 (イソチオシアン酸アリルの情報)
- 危険有害な分解生成物 :
- ・ 窒素酸化物、イオウ酸化物を含む非常に有毒なヒューム (イソチオシアン酸アリルの情報)

1.1. 有害性情報

急性毒性	： イソチオシアン酸アリ ル	LD50 (経口)	ラット	339 mg/kg [1]
		LD50 (経口)	ラット	112 mg/kg [1]
		LD50 (経口)	マウス	308 mg/kg [1]
		LD50 (経皮)	ウサギ	88 mg/kg [1]
		LC50 (蒸気)	ラット	0.5 mg/L(4h) [1]
皮膚腐食性/刺激性	： ジブチルヒドロキシト ルエン	LD50 (経口)	ラット	>2930 mg/kg [2]
		LD50 (経皮)	ラット	>2000 mg/kg [2]
		LD50 (経口)	ラット	3660 mg/kg [1]
皮膚腐食性/刺激性	： 製品 イソチオシアン酸アリ ル	製品	区分2	
		イソチオシアン酸アリ ル	区分2	
		ジブチルヒドロキシト ルエン	区分3	
眼に対する重篤な損傷 /刺激性	： 製品 イソチオシアン酸アリ ル	製品	区分外	
		イソチオシアン酸アリ ル	区分2	
		ジブチルヒドロキシト ルエン	区分2 B	
皮膚感作性	： 着色剤 (緑) イソチオシアン酸アリ ル	着色剤 (緑)	区分2 A	
		イソチオシアン酸アリ ル	区分1	
変異原性 (生殖細胞変 異原性)	： イソチオシアン酸アリ ル	イソチオシアン酸アリ ル	区分外	
		ジブチルヒドロキシト ルエン	区分外	
発がん性	： イソチオシアン酸アリ ル	イソチオシアン酸アリ ル	区分外	
		ジブチルヒドロキシト ルエン	区分外	
生殖毒性	： ジブチルヒドロキシト ルエン	ジブチルヒドロキシト ルエン	区分2	
		ジブチルヒドロキシト ルエン	区分2	
特定標的臓器/全身毒 性-単回暴露	： イソチオシアン酸アリ ル	イソチオシアン酸アリ ル	区分3	(気道刺激性)
		ジブチルヒドロキシト ルエン	区分2	(全身毒性)
特定標的臓器/全身毒 性-反復暴露	： ジブチルヒドロキシト ルエン	ジブチルヒドロキシト ルエン	区分2	(肝臓, 血液, 甲状腺, 腎臓)

1.2. 環境影響情報

- ・ 漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与えるおそれがあるので取り扱いに注意する。特に製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

水生環境有害性

イソチオシアン酸アリル	LC50 (96H)	魚類(ファットヘッドミノー)	0.0856 mg/L [1]
ジブチルヒドロキシトル エン	LC50 (96H)	魚類(Brachydanio rerio)	0.57 mg/L [3]
	EC50 (48H)	甲殻類(オオミジンコ)	1.44 mg/L [4]
水生環境有害性 (急性毒性)	：	・ イソチオシアン酸アリル	区分1
		・ ジブチルヒドロキシトル エン	区分1

水生環境有害性（慢性毒性）	：	・ イソチオシアン酸アリル	区分1
		・ ジブチルヒドロキシトルエン	区分1

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	：	・ 容器、機器装置等を洗浄した排水等は地面や排水溝へそのまま流さないこと。 ・ 排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても廃棄物の処理および清掃に関する法律に従って処理を行うか委託をすること。
汚染容器および包装	：	・ 許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。 ・ 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

1 4. 輸送上の注意

- ・ 容器にもれないことを確かめ転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。
- ・ 取り扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。

陸上輸送	：	・ 消防法に定められる運送方法に従うこと。
------	---	-----------------------

1 5. 適用法令

消防法	：	・ 危険物 第4類 第2石油類
化学物質審査規制法	：	・ 優先評価化学物質 ジブチルヒドロキシトルエン(0.2%)
労働安全衛生法	：	・ 施行令 別表1-4 引火性のもの ・ 57条の2 通知対象物質 ジブチルヒドロキシトルエン(0.2%)

1 6. その他の情報

引用文献	：	[1] 原料メーカーのMSDS [2] OECD SIDS Initial Assessment Report [3] IPCS INCHEM EHCs: Environmental Health Criteria Monographs [4] CERl: 「化学物質安全性（ハザード）評価シート」
その他	：	・ 引用文献 : 原料メーカーのMSDS ・ <充填液の情報> 引火点 : 50.5°C（セタ密閉式）（類似品のデータ、三菱化学フーズ社内資料） 消防法 : 危険物 第4類 第2石油類 労働安全衛生法 : 施行令 別表1-4 引火性のもの ・ <包材の情報> 消防法 : 指定可燃物（合成樹脂類 3,000kg） ・ 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする等の場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。